全日遊連

風適法検討会月1開催へ

RSNの14団体支援が正式決定、ホール電気使用量またも目標未達に

全日本遊技事業協同組合連合会会長・原田實理事長は1月20日、都内港区の新橋第一ホテルにおいて新年理事会を開催。終了後に会見を行った。

●4団体代表者懇談会について

昨年12月1日に開催された全日遊連、日遊協、日工組、日電協の4団体代表者懇談会の内容を理事会で報告。懇談会では「遊技機の販売方法に関する4団体合意」の厳守についての再確認、全日遊連が要望している枠（木枠）の共通化について、現在日工組で組織内討議を行っており、この1年をメドに具体化していく方針との報告があったと発表された。

●パチンコ・パチスロ産業21世紀会

4団体代表者懇談会と同日開催されたパチンコ・パチスロ産業21世紀会の内容について理事会報告。

・RSNへの14団体支援が承認可決

全日遊連が設立、援助して運営しているパチンコ依存症、のめり込みの専門相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」（RSN）について、業界14団体で運営資金を支援していくことが正式に決定された。RSNは06年の設立以来、相談件数が増加、のめり込みに対して業界が自ら設立した機関としてその存在意義も年々大きくなってきている。額については明らかにされていないが、14団体が社員として加盟し不正遊技機の撲滅を目的に活動している遊技産業健全化推進機構と同様に、メーカー・販売会社傾（全機連）とホール5団体で折半する計画と発表された。

原田理事長

●民主党遊技業法案関連

民主党娯楽産業健全育成研究会が作成した遊技業法案に関連して、1月17日に行われたホール5団体の会議で、PCSAを除く4団体（全日遊連、日遊協、同友会、余暇連）が、遊技業法ではなく、現行風適法の元での営業を望むが、風適法の問題点などの改善要望を警察庁に行っていくとする方針で改めて合意。ホール5団体の風営法検討会を月1回程度開催することが決定した。この検討会で要望書を作成、4月までに要望事項を取りまとめ、秋までに提出したいと発表した。

会見では5団体の中で唯一業法案を支持しているPCSAの態度について、

「PCSAの問題提起が風適法の問題点改善、風適法検討会の開催に繋がった」と、団体間の関係悪化等は否定。あくまでホール5団体で要望書を提出していきたいとした。

●入替自粛アンケート決定

昨年実施されたAPEC関催に伴う遊技機入替自粛について、各都府県方面遊協で検証アンケートの実施が決定。1月下旬には各遊協に送付、3月理事会で発表する予定であることが発表された。前回洞爺湖サミット時のアンケート結果では、「ぜひまたやってほしい」という声が過半数を越えたが、今回の入替自粛については、著しく稼動の低下を招いた、と総括する店舗も多く、アンケート結果に注目が集まる。

●ホールにおける電気使用量調査09年度版

07年度から調査を行っているホールにおける電気使用量調査の09年度版を発表した。

・対象1万1579店舗中回答9666店舗（83・5%）

・総使用量／81億1204万7882万1805店舗に換算した場合の総使用量／81億6万kWh

・CO2排出量367万トン、前年比0・3%減

・調査対象ホール（1万1579店舗）に換算した場合の推計値／461万トン

全日遊連では基準年となる07年から年間3%、5年間で15%のCO2排出量削減を目標とする「環境自主行動計画」を策定している。今回の結果は、前年調査からやや減少となったが、目標数値の年間3%減には2年連続で届かなかった。

【参考】

08年度

・総使用量／81億2918万2930kWh

・CO2排出量／368万トン

・調査対象ホール（1

平成23年新年会

中国遊商

責任と義務を果たす事が大事

消費税問題や新法等、業界が大きく変わる重要な年

松原理事長

中国遊技機商業協同組合（松原陽輔理事長）は1月13日、広島市のホテルグランヴィア広島において、新年互礼会を開催した。

はじめに立った松原理事長は、

「昨年を振り返りますと、我々の業界で二番の出来事は新中古機流通システムの運用開始ではないかと思います。いわゆるビニール袋で筐体を包むというモノです。これは我々全商協が好きこのんでやっている訳ではありません。新システムに移行するに至った背景には、パチスロが4号機から5号機に変わった。いわゆる爆裂機と呼ばれるモノですが、メーカーも法律の中で、出玉性能の高い台が作れましたが、最初は様子を見ながら、それなりの性能の台を出していましたが、AT機、ストック機といわれるモノが出始めてメーカー各社も販売競争といいますか作れば売れる訳ですから、それによるのめり込みなどの社会問題が発生するなどの状況があり、行政から5号機に移行するようにとなりました。それに似た所で我々の中古機流通システムも新当導入から1週間や10日で機械が動かせるという事で我々販社やホールが責任と義務を果たす事がおろそかになった結果、行政の方から不正があっても責任の所在が明確化されないとの指摘からこのような状態になりました。この事を踏まえて、皆さんは業務の遂行を行って頂きたい」と述べ、責任と義務をキチンと果たしていけば、いずれ悪火な時間と労力を使っているシステムの改善が出来るとした。

来賓を代表して挨拶に立った広島県遊協の池田仁志理事長は、

「今年は我が業界にとっても、日本にとっても非常に不安定な年ではないかと思います。政治的不安、経済的不安など暗雲が立ち込めております。当然ながら我が業界も大きな問題を抱えております。一例を挙げると消費税の問題です。現在、5%ですが近い将来、10%、15%と大幅な税率アップがあった時には、とてもそれを転嫁する事は不可能です。この問題は必ず近いうちにやって参ります。その他、新法の制定問題についてですが、民主党の中で討議されており、担当行政である警察庁と経済産業省がこの問題を検討しておりますが、この成り行きによっては我が業界は大きな事態となり得ます。そのような中、社会的、経済的各種不安定要因が山積している為、国民の財布のヒモが非常に厳しくなっております。パチンコ人口は一時より増加しておりますが、過去10年にパチンコをしたいわゆるシニア人口が年200から230万人と減少しております。シニアのお客様は低金賃、1円なら安く遊べる方で遊技されます。そのため、収益性はなかなか追い付かないという現状です。この中で我々はどう生きていけばいいのかを真剣に考えているか。問題点を把握したがらも同じように新しい機械を誰よりも早く、誰よりも多く設置する事という従前の考え方がまだ横たわっております。高コスト体質から脱却し、お客様に転嫁していく事が重要です。考え方、取り組み方の変換を今こそやっていかねばなりません」と述べ、商業組合員に対して理解と協力を求めた。

平田支部長

池田理事長

区制遊西中国四国支部の平田支部長の乾杯の音頭で懇親会に移り、途中アトラクションなども行われ、参加各人が懇親を深めた。